

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第28号

発行年月 2014年9月
 発行所
 一般社団法人
 岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
 〒700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
<http://okayama.houmonkango.net/>
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 石本 傳江

法人化2年目を迎えて

一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会



会長 石本 傳江

会員の皆様、
猛暑の夏をいか
がお過ごしですか？

昨年私たちの協議会は一般法人となり、岡山県や市から受託事業を頂き、理事、委員会の皆様には、活発な活動を通してご協力いただきました。2年目の今年も受託事業と連動しながら、訪問看護に関する様々な課題に取り組んで参ります。

まず人材確保・定着が最優先と考え、受託事業の体験研修等を通して未就業の方の就業を促し、初任者研修によって当初の不安軽減と仲間づくりによる定着を図ります。採用に当たっては、国の地域人づくり事業を活用し訪問看護ステーションへの助成を確保し、研修に参加しやすい環境を整備する、という一連のサイクルを構築したいと考えています。コールセンター事業は、相談のみならず、運営に関する支援事業を強化し、事業所の安定を目指します。今年はいくヶ所の訪問看護ステーションが増え、相互に支え合う必要を感じます。在宅ケアを担うために、看護職が手をつなぎ共に進んで参りましょう。

新設のステーション紹介

富田訪問看護ステーション

管理者 藤井 京子

当事業所内の登録利用者様が医療ニーズの必要性が高まってくる為、平成24年12月、倉敷玉島富田に訪問看護ステーションを開設致しました。

『笑顔、優しさ、安心』を一人一人にお届けすることを方針に、看護師3名、玉島、矢掛、浅口市と幅広く訪問しています。

長年訪問看護に携わっている看護師ですが、まだまだ未熟な為、勉強会・研修会へと参加し、技術の向上を目指しています。

これからも安心して在宅生活を送れるように支援し、利用者様やご家族様の代弁者となり在宅生活が不安なく過ごせるよう頑張っていきますので宜しくお願い致します。



アップルウッド訪問看護ステーション

管理者 平松 美和

アップルウッド訪問看護ステーションは、サービス付き高齢者向け住宅 アップルウッド西大寺に併設した訪問看護事業所です。

運営理念は、『御本人・御家族様の気持ちに最大限寄り添ったケアへの挑戦』です。開設から9カ月が経過し、現在の看護職員は8名まで増員。おかげさまで7月の月間訪問実績は、医療保険131件、介護保険268件、総数399件になりました。営業時間は朝7時から夜8時の365日稼働です。受け入れ対象者は、平均要介護度4.0で、医療区分2・3の方が約6割です。末期がん等の看取りにも数件取り組むことができました。

協力往診医8名の先生とともに地域に必要とされるステーションを目指して頑張っています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

平成26年度後期研修計画

日程	テーマ	ねらい	講師	場所
9/18(木)	訪問看護ステーション開設セミナー	訪問看護ステーション開設にあたっての体験談	ステーション管理者	岡山県看護研修センター
10/5(日)	フィジカルアセスメント	臨床に役立つフィジカルアセスメントの基礎を学ぶ	認定看護師 竹本真由美氏 呼吸療法士 安東雅美氏	津山中央病院 医療研修センター
11/8(土) 午後	褥瘡セミナー(大鵬薬品と共催)	訪問看護における褥瘡予防について理解する	岡山大学病院 認定看護師 青井美由紀氏	岡山国際交流センター
12/14(日)	在宅における精神看護の実際	在宅における精神科領域の知識を深める	未定	岡山県精神科医療センター
H27 1/24(土) 午後	検査データの基礎知識(岡山市合同研修)	正しい検査データの見方を学び症状の把握に役立てる	藤田病院 藤田俊弘医師	ウェルポートなださき(文化センター)
2/28(土)	リハビリテーションポジショニング	拘縮予防のポジショニング及び安全な移乗方法を学ぶ	岡山県理学療法士協会	看護研修センター(大研修室)

「連携の取り組みを強化しています」 **ステーションからの**
リレーだより 「他部署体験研修で訪問看護PR」

津山中央訪問看護ステーション
 管理者 西川 秀香

さとう記念病院訪問看護ステーション
 管理者 田中 啓子



当ステーションでは、平成24年から「始まりは看看連携」と称して、他機関との連携強化を図っています。

【退院後の評価】

医療機関や施設を退院(所)し、1ヶ月前後に写真

付きで送ります。ターミナルの方は早めに送り、家での表情を見た病院看護師から好評を得ています。一人でも多くの在宅退院を意識してもらいたと思っています。

【通所系サービスの訪問】

利用時に受持看護師が施設を訪問し、施設職員と情報共有を行っています。家とは違う顔を拝見することもあり、新たな発見に感動しています。

【情報交換会】

医療機関と保健所保健師(難病では助けて頂いてます)、と行いました。保健師より、難病の制度についてレクチャーを受け、それぞれの担当者について情報交換しました。

【情報誌の発行】

利用者、医療機関、ケアマネジャーに送っています。

関係者が連携し顔の見える関係を構築することが、利用者の方々に良い影響を与えると信じて今年も頑張ります。

さとう記念病院訪問看護ステーションは美作三湯の一つ湯郷温泉に隣接する勝田郡勝央町にあり県北東部を中心に活動しています。「住み慣れた自宅地域で…」をモットーに地域の皆さまの在宅療養支援に努めています。当院では院内研修で他部署体験があり今回訪問看護ステーションへも看護師4名が体験しました。入院中の担当患者様宅へ訪問した看護師からは「退院前に必要な福祉用具や継続する問題点・予測される変化などの情報提供まで考えていなかった」「在宅環境での困難や不自由さを予測し情報提供できていれば退院後の生活がスムーズだったかも」の反省と学びから退院支援に療養生活の視点の必要性に気づき「今後の在宅支援の看護師の役割を考え実行したい」と感想をもらいました。在宅復帰支援に私たちの看護力を活用していただきたいと思っています。病院看護師や地域関係各職の方たちと密に連携し地域包括ケアの要となる訪問看護ステーションとして機能できるように日々研鑽していきたく思います。

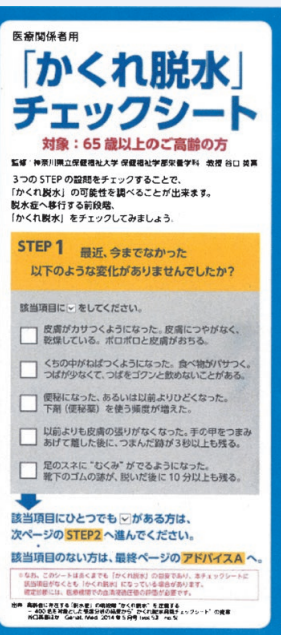


お客様から頼られる
「西日本メディカルリンク」
 を目指して

弊社、西日本メディカルリンク(株)HHC(ホームヘルスセンター)事業部ではストーマ装具の販売事業から福祉用具のレンタル・販売事業を行っております。また、訪問看護ステーション様や施設様に対しても医療用品・介護用品の販売と幅広く業務を行っております。事業部内ではコールセンターを併設しており、女性ばかりのスタッフがお客様からのご注文からご相談に対応させて頂いており、お客様が安心した生活が過ごせるよう日々サポートさせて頂いております。私どものモットーでもある「明日の笑顔のために」を念頭に掲げ、お客様をはじめ、関わる全ての方々が笑顔で快適な生活が送れますよう、スタッフ一人一人が皆様の生活のお手伝いをさせて頂きます。お客様から頼られる「西日本メディカルリンク」を目指し、今後もスタッフ一同精進してまいります。

高齢者向け「かくれ脱水」チェックシート完成
 (株)大塚製薬工場

「かくれ脱水チェックシート」は、およそ400名の高齢者を対象に行った臨床研究をもとに作成された。「かくれ脱水」とは脱水症の前段階。体の1~2%の体液が失われている状態を指す。



10cm×21cm
 持ち運びに便利なサイズ

チェックは3段階に分かれており、定期的に確認しやすいシンプルな構成になっている。
【STEP 1】では「最近、今までなかった次のような変化がありませんでしたか?」で、①皮膚がかさつくようになった。②口の中がねばつくようになった。③目が少なくて、ゴクンと飲めないことがある。……など5項目を確認。1つでもチェックがあれば、STEP2へ。
【STEP 2】では①日当りの良いところ、または屋外にいる時間が長い。②普段よりも集中力が低下している。……など5項目を確認。こちらも1つでもチェックがあれば、STEP3へ。
【STEP 3】最後に年齢や持病に関する2項目を確認する。
 チェックに応じたアドバイスが書かれている。
 このチェックシートは(株)大塚製薬工場で配布している。

マッチングプラザに参加して

広報委員 高橋 幸代

去る、6月10日・11日、コンベックス岡山に於いて「介護サービス博覧会おかやま〜マッチングプラザ」が開催されました。介護サービス、健康・福祉事業所など127団体が出展、2日間で3200名の来場があり、大盛況でした。岡山県訪問看護ステーション連絡協議会のブースでは、“活歳君” “アロマオイルを使用してのハンドセラピー” “血圧測定”を実施しました。訪れた方は160名以上と年々来場者が増える中、血圧が高く、病院受診をお勧めした方もいました。「昨年も来て良かったから今年も楽しみにして来ました」、「“活歳君”で年1回、チェックしてもらえます」との声もあり、また授業の一環として参加されている学生の方もおられ、笑顔の中で色々な質問もあり、将来が楽しみだと感じる場面もありました。とっても良いPRになったと思います。



「腹膜透析の基礎知識と実際」を受講して

あーくす岡山訪問看護ステーション 澤田 久子

平成26年7月26日(土) ゆるびの舎(早島町町民総合会館)にて「腹膜透析の基礎知識と実際」の研修会が開催されました。

テルモのクリニカルコーディネーターの滝本先生から、治療方法や統計等、原理PDの概論について、大変分かりやすくご指導を頂きました。

岡山大学病院の副看護師長 笠原由美子先生よりバック交換や、出口ケア・入浴等日常生活等PDの日常生活について、具体的にご指導を頂きました。

また午後からは、バッグ交換を実際にさせて頂きました。

そして川崎医科大学の山中めぐみ先生より、腹膜炎の対応や、カテーテルを不潔にした時の、緊急時の対応を事例を交えて、イメージをしやすいように教えて頂きました。

岡山済生会病院の大脇浩香先生より、在宅に帰られて他職種との連携のあり方や訪問看護師の役割の大きさを様々な視点から教えて頂きました。

苦手意識が高い分野でしたが、訪問看護師のサポートを遠慮なくして頂けるので不安なく在宅で支援可能だと認識の改善が図れました。



利用者様の声

介護生活あれこれ

岡山しげい訪問看護ステーション 利用者

2001年(平成13年)に定年をあと7年残して大学図書館を辞め、両親の介護のため岡山に帰ってきました。すでに高齢の両親だけでは日常生活に何かと不自由をきたしていたうえ、父は週3回人工透析に通い、母はパーキンソン病、認知症が進行し家族のサポートが必須と思われたからです。

最初のころは果たして在宅介護が両親にとっても私自身にとってもよりよい選択だったかどうかよく悩みました。しかし両親の病气と老いが進むにつれ、在宅介護生活のなかで、ときには無力感にさいなまれることもありましたが、若いころはよく理解できなかった両親の真の姿が垣間見えてきて、次第に両親との生活は私にとっても有意義な毎日だと感じられることが多くなりました。

父と子の関係は昔から文学の一大テーマになっているぐらい葛藤と対立をかかえているものですが、父の最晩年に至って父の存在がいかに大きかったか、また尊敬に値するものであったかしみじみ分かるようになりました。父は今年(2014年)の6月に人工透析を受けつつも、満96歳の長い人生をまっとうすることができました。父に対する尊敬と感謝の気持ちを父が亡くなる前に直接伝えることができたのも介護に深く関わったからだだと思います。

在宅介護は訪問看護、ヘルパー、医師等多くの方々の助けを借りて成り立っています。そんななかで家族の役割は要介護者の日常のケアを担当するだけでなく、日々の状態を的確に医療介護スタッフに伝え、気になることはひとつひとついっしょに解決していくという積極的な関わりが必須です。要介護者を一番身近に観察している一番の“プロ”であることを自覚していくことが、在宅介護を成功させるポイントではないでしょうか。



私の長い介護生活も父の死によってやっと半分終わりました。寝たきりの母との2人だけの生活ですが、スタッフの皆様のお力を借りながら最後までがんばろうと思います。最後になりましたが、在宅介護サービスの中核的な役割をされている訪問看護師の皆様にはとりわけ感謝の気持ちでいっぱいです。本原稿の執筆依頼の趣旨は「訪問看護に対して希望することを書いて下さい」でしたが、現在ベストのサービスを受けているという実感しなく、これ以上の何かをお願いする項目は特に見あたりません。

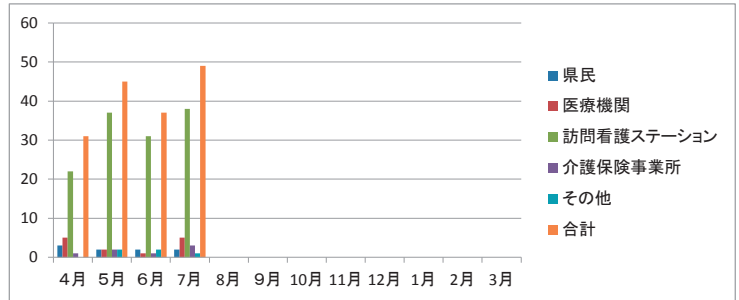
訪問看護 Q & A

by コールセンターおかやま 大野 幸恵・黒田 喜美代

今回の医療保険改正のポイントはここ!!

1. 衛生材料の書き方
2. 精神訪問看護について
3. 機能強化型訪問看護ステーションについて
4. 在宅褥瘡対策チームの在宅褥瘡管理者について
5. 睡眠時無呼吸症候群に対するASVやCPAPについて

以上5点の電話がととても多く、対応におわれました。



5月6月7月の電話件数が一気に増えています。

1. 衛生材料の書き方

厚生労働省からの通達は、当初は必要な衛生材料の量を計画書に記載と、使用実績を報告書に記載だけで、どのように書いてよいか電話が殺到しました。看護財団や事業協会や中国四国厚生局にも電話をいたしました。記載の方法は特に通達はないので各事業所の判断で書くしかないと言われてきました。最近の厚生労働省関連通知で「処置の内容」及び「衛生材料等」は具体的に記入して、「必要量」については1ヶ月間に必要となる量を記載するようにやや詳しく書かれていました。しかしまだ衛生材料の書き方については不明な点がたくさんある?! (訪問看護システムソフトは対応版が出てます)

2. 精神科訪問について

精神障害者の地域生活への移行が促進されている現在、訪問看護を利用する精神障がい者も増えていく中での制度の改定であり、今回実地指導でほとんど説明がなく理解するまでに時間を要しました。

- 65歳以上の介護保険の方も、精神科を標榜する保険医療機関の精神科を担当する医師の精神科訪問看護指示書がある場合は医療保険になるが、その場合訪問看護ステーションは届出が必要となります。
 - 届出をしていないステーションは原則精神の訪問は出来ないとの事ですが、介護保険で訪問看護を行う場合は、精神の指示書ではなく、普通の訪問看護指示書で病名欄に内科の病名も記載してもらい、指示内容に内科の管理の必要性を書いてもらってください。
 - これから精神科の患者さんはどんどん地域に帰ってこられるので、できるだけこのステーションも精神の届出ができるように努力してほしいとの事です。
- 以上が事業協会に尋ねた時の内容でした。

3. 機能強化型訪問看護ステーションについて

届出の関所はターミナルケア加算数!この計算の仕方は毎月報告が義務付けられており、報告月から遡って1年間に20件ないし15件が満たなくなったら、その月から届出を取り下げなければならないとの事です。利用料のこともあり安定した件数がないと難しい。

4. 在宅褥瘡対策チームの在宅褥瘡管理者について

この在宅褥瘡管理者をステーション職員が取っても、ステーションには全く報酬にはなりません。すべて医師の病院に入ります。

5. 睡眠時無呼吸症候群に対するASVやCPAPについて

SAS(睡眠時無呼吸症候群)に対するASVやCPAPは人工呼吸器には含まれないが、慢性心不全の患者の場合、在宅人工呼吸指導管理料を算定していれば、別表7に掲げる疾病等の者の「人工呼吸器」に含まれることとする、なおこの取扱いにより、保険種別が変更となる場合は、次回の介護保険のケアプラン(1ヶ月間)までの間に変更すること。(7月10日付疑義解釈)

疑義解釈や、算定の本の確認をよろしくお願いいたします。

岡山大学病院看護部 オンライン教育システム

岡山大学病院
看護研究・教育センター 保科 英子

岡山大学病院看護部のオンライン教育システムをご存じですか。本システムは、「いつでもどこでも学習ができる」ことを目的として、岡山大学病院の看護職に公開されているものです。その一部は、一般公開コンテンツとして誰でも見ることができます。現在は、19コンテンツを公開しています。中でも「がん化学療法薬の安全な取り扱い」「化学療法における過敏症」「せん妄を惹起しやすい薬剤」「痛み日記の付け方」がおすすめです。入り方は、岡山大学病院看護部のHPから、右側にある「EBN志向の次世代看護職教育システム開発」のバナーをクリック、さらに「岡山大学看護部オンライン教育システム」のバナーをクリックしてください。直接<http://ebn.dip.jp/index-2.php>へ入ってくださってもかまいません。ご感想、ご要望をお寄せいただければ幸いです。また、フィジカルアセスメント、急変時対応、基礎看護技術等の研修を受けております。ご相談くださいませ。(TEL:086-235-6090)

編集後記

今年は、台風の影響・災害のニュースが多く、災害時に対する私たちのあり方を考えるべき時だと感じています。皆の力を合わせて頑張っていきたいですね。介護保険・医療保険制度が変わろうとしている中、在宅の力を発揮していきたいと思っています。皆様の意見お待ちしております。活性していきましょう!!

広報委員一同